

## 県内経済は、生産活動が一進一退、公共工事、雇用情勢等の悪化とともに、原油を始めとする原材料価格高騰の影響が様々な業態に及び、悪化傾向にある。

### 1. 平成20年6月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は、全店舗ベースでは5ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、大型、中小型乗用車がともに前年を上回ったものの、軽自動車は2桁台の減少となり全体では2ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、外需に支えられた一般機械、輸送用機械などの業種は堅調であるが、増勢基調に一服感がみられる。投資動向をみると、公共工事は、県および市町村などからの発注減により、件数が3ヵ月連続、請負金額が2ヵ月連続とともに前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が3ヵ月連続、床面積および工事予定額がともに2ヵ月連続でいずれも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家、給与住宅がともに増加したものの、持家、分譲住宅がともに減少し、全体では2ヵ月ぶりに前年を下回った。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率がともに8ヵ月連続で前年を下回るなど悪化している。

〔消費動向〕 減少：大型小売店販売額（全店舗）は、婦人服などの衣料品や身の回り品などが全体的に低調だったものの、飲食料品の伸びに支えられ5ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、大型乗用車、中小型乗用車は増加に転じたものの、軽乗用車が2桁台の減少となり、全体では2ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、10ヵ月連続で前年を上回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、デジタルカメラ、携帯電話、洗濯機などは引き続き低調だったが、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、冷蔵庫などは動きがみえ始め、全体では前年並みの水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品、園芸用品などが堅調で全体ではほぼ前年並みの水準で推移した。旅行取扱額は、燃油特別付加運賃の高騰などから国内、海外旅行がともに伸び悩みの傾向が強まった。

〔投資動向〕 減少：公共工事は、県ならびに市町村などからの発注減少により件数が3ヵ月連続、請負金額が2ヵ月連続とともに前年を下回った。5月の建設着工（民間・非居住用）は件数が3ヵ月連続、床面積および工事予定額が2ヵ月連続でいずれも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家および給与住宅が増加したものの、持家および分譲住宅がともに減少し全体では2ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔生産活動〕 一進一退：5月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、108.9（前月比+1.8%）と2ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数では、101.6（前年同月比+1.3%）と2ヵ月連続で前年を上回った。大口電力販売量は、増加基調（前年同月比+7.6%）で推移した。

〔企業倒産〕 悪化：倒産件数が16件となり9ヵ月連続で2桁台の高水準となった。また、倒産金額は2ヵ月連続で前年を大幅に上回るなど、依然悪化増勢基調で推移した。

〔金融動向〕 低調：6月末の預金残高は16ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は18ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向〕 悪化：新規求人倍率、有効求人倍率がともに8ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は1.01倍と平成15年11月（1.03倍）、有効求人倍率は0.72倍と平成16年4月（0.71倍）の水準まで低下した。

県内経済動向の概要

	項目	平成20年4月		5月		6月	
		前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	→	→	→	→	→	→
	乗用車新車登録台数	→	→	→	→	→	→
	消費者物価指数（総合）	→	→	→	→	→	→
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	→	→	→	→	→	→
	建設着工棟数（民間・非居住用）	→	→	→	→	-	-
	新設住宅着工戸数	→	→	→	→	→	→
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	→	→	→	→	-	-
	大口電力販売量	→	→	→	→	→	→
企業倒産	企業倒産件数	→	→	→	→	→	→
	企業倒産金額	→	→	→	→	→	→
金融動向	預金	→	→	→	→	→	→
	貸出金	→	→	→	→	→	→
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	→	→	→	→	→	→
	新規求人倍率（パート含む）注2	→	→	→	→	→	→

良化 → 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ↘  
 注1：季節調整値。 注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

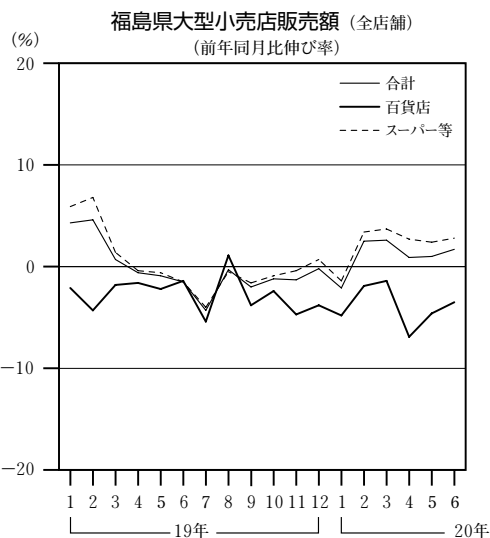
**大型小売店** 6月の県内大型小売店の販売額は、婦人服などの衣料品や化粧品、バッグ・アクセサリなどの身の回り品が全般的に低調に推移したものの、飲食料品の伸びに支えられ全店舗ベースで184億97百万円（前年同月比1.7%増）となり5ヵ月連続で前年を上回った。しかし、既存店ベースでは、同1.3%減となり3ヵ月連続で前年を下回った。

業態別に内訳をみると百貨店は、主力の婦人服などの衣料品、身の回り品、家庭用品などが全般的に低調に推移し合計で31億78百万円（同3.5%減）となり10ヵ月連続で前年を下回った。

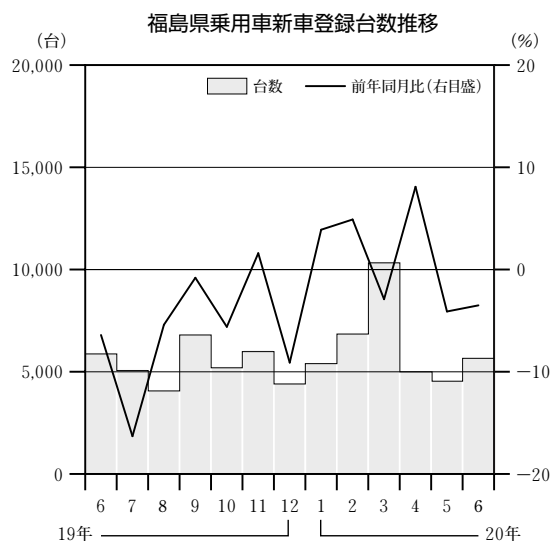
スーパーは、衣料品、身の回り品などが全般的に低調だったものの、主力の飲食料品の伸びにより合計で153億20百万円（同2.8%増）となり5ヵ月連続で前年を上回った。

**乗用車販売** 6月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で5,764台（前年同月比3.5%減）となり2ヵ月連続で前年を下回った。車種別で見ると、大型乗用車は753台（同8.7%増）、主力の中小型乗用車は2,869台（同3.4%増）となり、ともに2ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、軽乗用車は2,142台（同14.5%減）となり2ヵ月連続で前年を下回った。

6月の乗用車中古車登録台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で9,393台（前年同月比4.1%減）となり4ヵ月連続で前年を下回った。車種



（資料：経済産業省）



（資料：福島県自動車販売店協会）

別にみると大型乗用車は2,737台(同5.6%減)と4ヵ月連続、中小型乗用車は3,544台(同8.6%減)と13ヵ月連続で、ともに前年を下回った。軽乗用車は3,112台(同3.0%増)となり2ヵ月ぶりに前年を上回った。

**消費者物価指数** 6月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、ガソリン価格の高騰、生活必需品などの値上がりにより、103.3(前月比+0.5%)となった。前年同月比では+3.0%となった。上げ幅が3.0%台に乗る大幅なものとなり10ヵ月連続で上昇した。

費目別の指数動向をみると、「食料」で105.0(前月比+0.3%)と7ヵ月連続、「光熱・水道」で112.7(同+2.1%)と4ヵ月連続、「交通・通信」で106.5(同+2.4%)と2ヵ月連続、「家具・家事用品」で97.0(同+0.2%)ならびに「教養・娯楽」で97.9(同+0.3%)と2ヵ月ぶりで、いずれも前月を上回った。

一方、「被服及び履物」で104.8(同△2.1%)と4ヵ月ぶり、「保健医療」で98.0(同△0.2%)と3ヵ月連続で、ともに前月を下回った。「住居」は100.2、「教育」は102.4で前月と変らなかった。

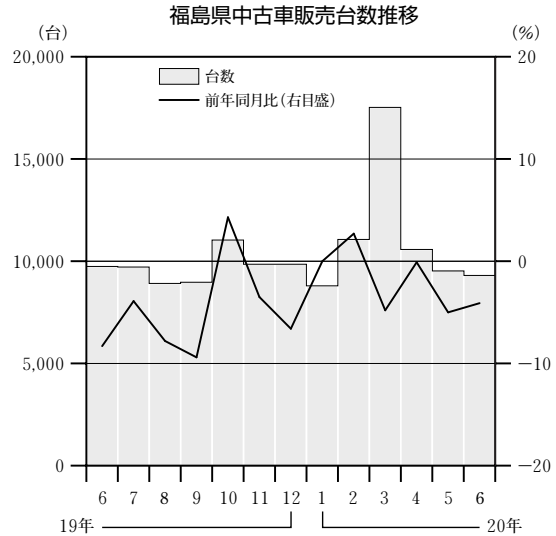
**家電量販店** 6月の売上は、携帯電話、デジタルカメラ、洗濯機などは引き続き低調だったが、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、冷蔵庫などは動きがみえ始め、全体では前年並みの水準で推移した。

**ホームセンター** 6月の売上は、家庭用品、DIY商品、園芸用品などが堅調、商品単価の引き上げなどもあり全体ではほぼ前年並みの水準で推移した。

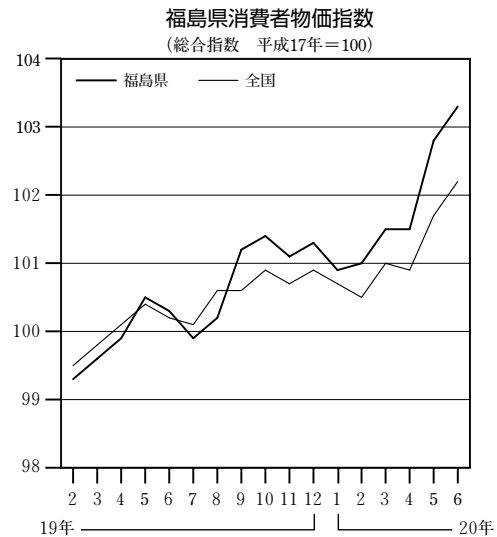
**旅行** 6月の旅行取扱額実績は、海外団体以外の海外個人、国内個人ならびに団体が前年を下回り、伸び悩みの傾向が強まった。

**高速道路** 6月の県内自動車道通過台数は3,316,854台(前年同月比5.1%減)となり3ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)は2,027,325台(同5.2%減)、磐越自動車道(磐梯熱海IC~西会津IC)は446,913台(同7.0%減)となり、ともに3ヵ月連続、磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)は227,647台(同3.0%減)と2ヵ月連続、常磐自動車道(いわき勿来IC~常磐富岡IC)は614,969台(同4.3%減)と8ヵ月連続で、いずれも前月に引き続き全路線で前年を下回り、減少幅も拡大した。

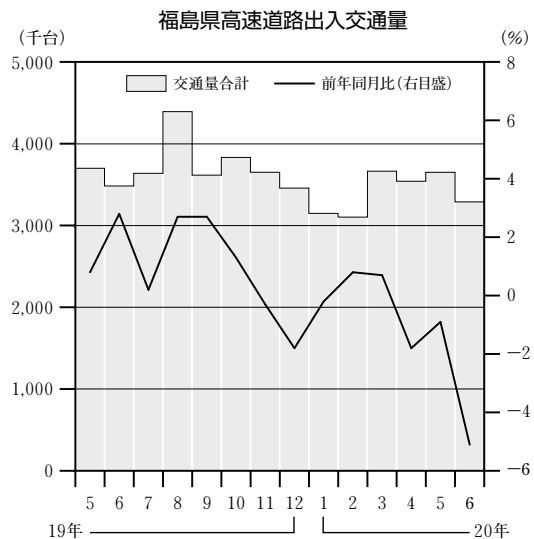
**福島空港** 6月の福島空港国内定期路線の利用状



(注) 軽自動車は名義変更台数含む  
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部  
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

況は、32,877人(前年同月比10.1%減)となり9ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は11,120人(同2.6%減)と10ヵ月連続、大阪便は17,736人(同8.3%減)と6ヵ月連続、沖縄便は4,021人(同13.2%減)と2ヵ月連続で、いずれも前年を下回った。一方、国際便の利用状況は5,023人(同11.5%減)となり7ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると上海便は107人(同92.4%減)となり5ヵ月連続で前年を下回った。ソウル便は4,916人(同15.2%増)となり5ヵ月連続で前年を上回った。

## 投資動向

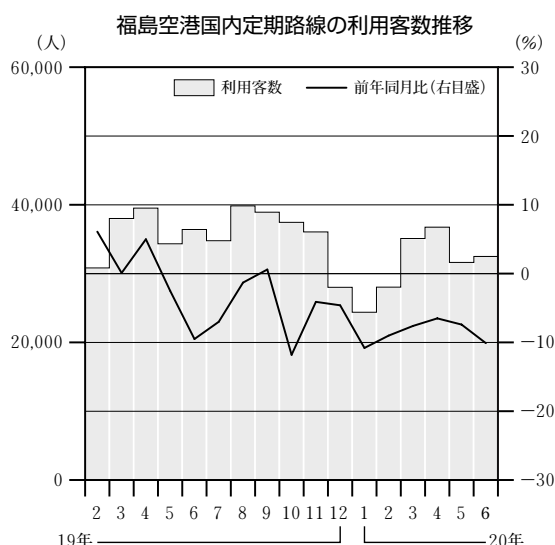
**公共工事** 6月の公共工事前払保証取扱は、件数で561件(前年同月比26.0%減)、請負金額で173億92百万円(同34.7%減)、保証金額で68億67百万円(同32.8%減)となった。件数は県および市町村などの発注減少により3ヵ月連続で前年を下回った。請負金額についても、県および市町村などの発注減少により2ヵ月連続、保証金額は3ヵ月連続でともに前年を下回った。

平成20年1月から平成20年6月までの累計は、件数で前年同期比519件減少し1,987件(前年同期比20.7%減)、請負金額で同174億26百万円減少し729億76百万円(同19.3%減)、保証金額で同62億27百万円減少し281億25百万円(同18.1%減)となった。半年間の動きでは、件数、請負金額、保証金額がいずれも前年を大きく下回る結果となっている。

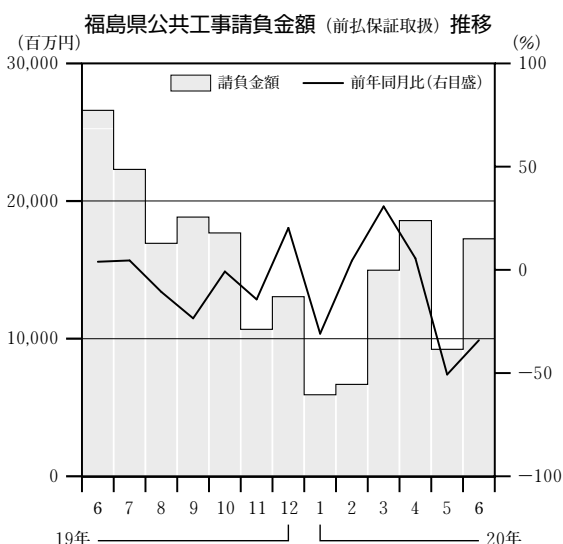
主な発注者別の年間累計請負金額は、国で前年同期比40億72百万円増加し176億51百万円(同30.0%増)となっている。一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県で同171億94百万円減少し210億35百万円(同45.0%減)、市町村で同63億5百万円減少し243億79百万円(同20.5%減)となっている。

**設備投資** 5月の建築着工(民間・非居住用)の棟数は117棟(前年同月比39.4%減)となり3ヵ月連続で前年を下回った。床面積は50,870m<sup>2</sup>(同76.3%減)、工事費予定額は69億14百万円(同56.9%減)となり、ともに前月より減少幅が拡大し2ヵ月連続で前年を下回った。

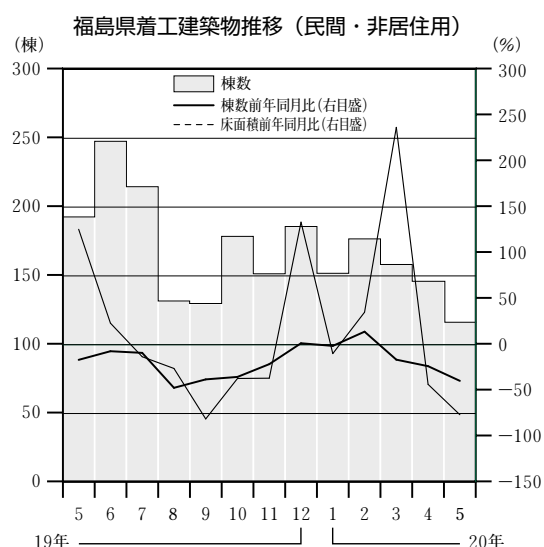
6月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、931件(前年同月比10.0%減)となり4ヵ月連続



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：東日本建設業保証(株))



(資料：国土交通省)

で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）で187件（同27.2%減）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）で744件（同4.2%減）となり、ともに4ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比19件増加し32件となった。

建築物着工の先行指標である6月の建築物申請件数は、926件（同8.7%増）となり5ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物で175件（同20.5%減）となり5ヵ月連続で前年を下回ったが、4号建物では751件（同18.8%増）となり4ヵ月ぶりに前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は前月と同数の26件となった。

**住宅建設** 6月の県内新設住宅着工戸数は、1,000戸（前年同月比7.8%減）となり2ヵ月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、「持家」は577戸（同6.3%減）、「分譲住宅」は28戸（同80.1%減）となり、ともに2ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、「貸家」は375戸（同15.4%増）と2ヵ月ぶり、「給与住宅」は20戸（同566.7%増）と2ヵ月連続で、ともに前年を上回った。

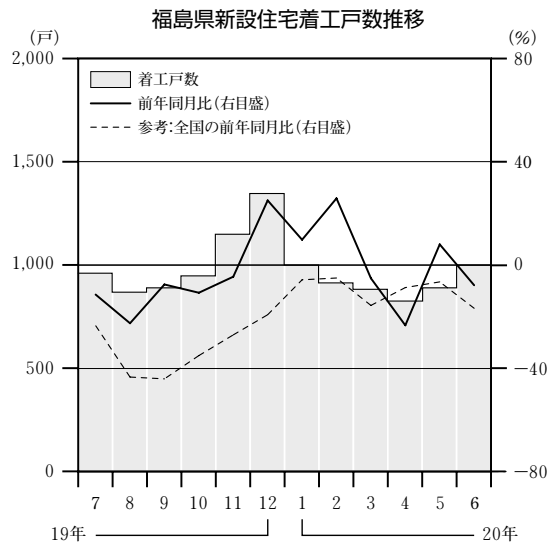
## 生産活動

**鉱工業生産指数** 5月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると108.9（前月比+1.8%）となり2ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は、101.6（前年比+1.3%）となり2ヵ月連続で前年を上回った。

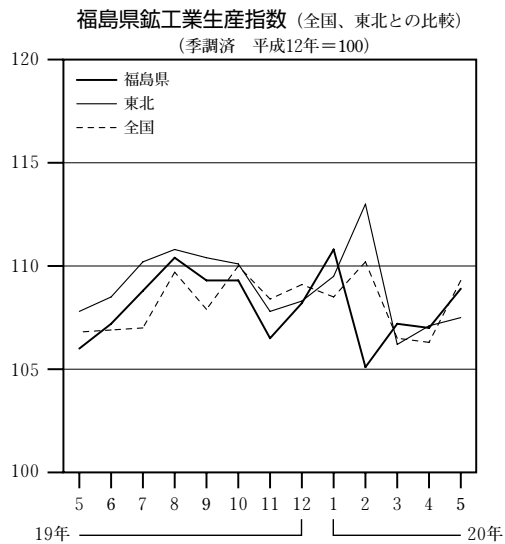
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、一般機械工業で135.4（前月比+13.5%）、輸送機械工業で120.9（同+9.0%）となり9業種が上昇した。

一方、金属製品工業で98.2（同△24.1%）、木材・木製品工業で44.6（同△8.0%）、窯業・土石製品工業で82.5（同△5.9%）となり9業種が低下した。

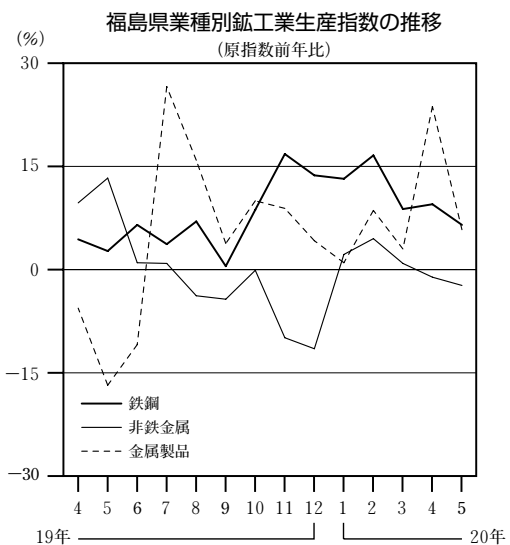
**化学** 6月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外からの好調な受注を背景に前年を上回る高水準で推移した。金属代替プラスチックや炭素繊維などについても、堅調な生産となった。6月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）、バリウム化合物（電子部品原料）および電子材料の生産などは前年をやや下回る水準で推移した。



（資料：国土交通省）



※全国値及び東北値は「平成17年=100」とする確報値を掲載（資料：福島県企画調整部統計調査課）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）

**鉄鋼・金属** 6月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材は前年をやや上回る水準で、半導体向け電子材は前年をやや下回る水準で推移した。建機用は、海外(中国、オーストラリア、中央アジア等)から鉱物資源用などの受注により前年をやや上回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要および台湾、ドバイなど海外からの受注により引き続き好調に推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連などの需要増加、船舶用バルブ部品も好調な受注を背景に前年並みの水準で推移した。

**輸送用機械** 6月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服状態、海外は北米市場でやや持ち直し、東南アジアや中南米向けなどの輸出は引き続き好調で前年を上回る高水準で推移した。

**電気機械** 6月の電熱炉、回転機は好調、変圧器、配電盤、回転機などの生産は、前年を下回る水準で推移した。

**情報通信機械** 6月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東(インド、トルコ等)などからの受注が堅調で前年をやや上回る水準で推移した。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

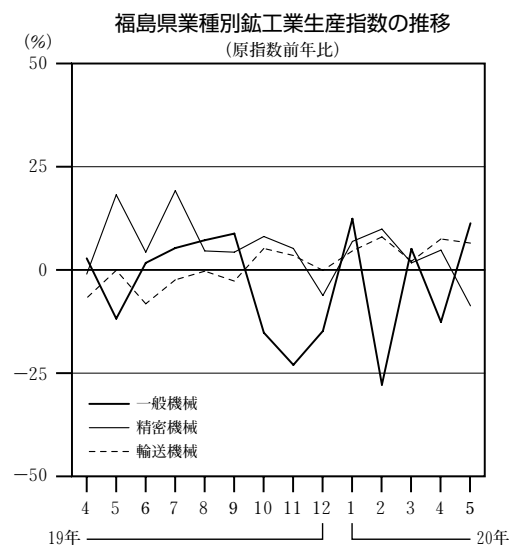
**電子部品・デバイス** 6月のLSI(大規模集積回路)の生産は、産業機器、通信、携帯電話向けなどがやや低調だったものの、主力のAV・ゲーム機・家電向け、パソコン・OA向け、車載品などが好調に推移し、全体では前年並みの水準で推移した。

**精密機械** 6月の医療用内視鏡の生産は、安定した需要から前年を上回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、前年並みの水準で推移した。

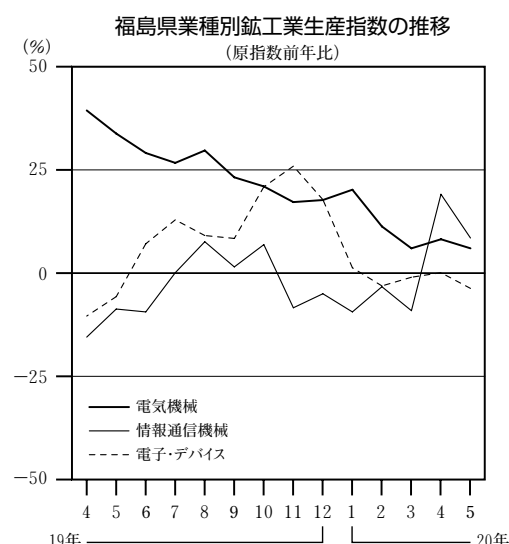
**紙・紙加工品** 6月の段ボールの生産は、前年並みの水準で推移した。感熱紙は前年をやや下回る水準で推移がノーカーボン紙、インクジェット紙の生産は、前年を上回る水準で推移した。

**窯業・土石** 6月の生コンクリート出荷量は、民需・官公需が引き続き低迷し全体で110,778<sup>m</sup><sub>3</sub>(前年同月比17.8%減)となり8ヵ月連続で前年を下回った。

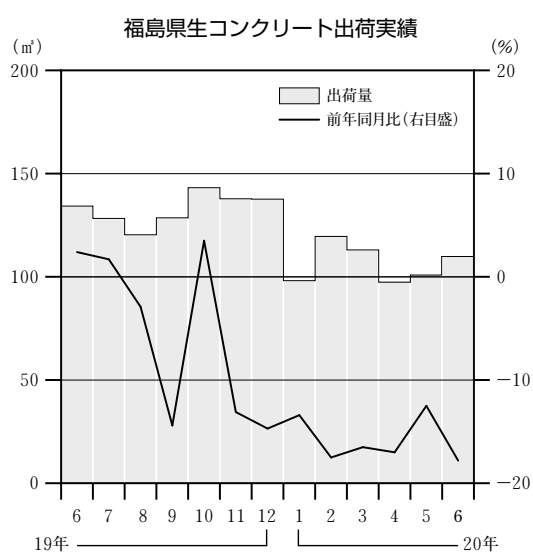
増加地区は民需ではショッピングセンター新築工事や工場新築工事などによる相双地区、会津地区、官公需では高速道路工事や河川工事などによる県北地区、会津地区、白河地区となった。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

**木材・木製品** 5月の素材（丸太など）の入荷量は、20,187m<sup>3</sup>（前年同月比4.2%減）、販売量は19,330m<sup>3</sup>（同8.7%減）となり、ともに4ヵ月連続で前年を下回った。一方、製材品（合板など）の入荷量は、2,441m<sup>3</sup>（同12.9%減）、販売量は1,966m<sup>3</sup>（同19.9%減）となり、ともに12ヵ月連続で前年を下回った。

5月の木造戸数は、新設住宅着工戸数896戸のうち、592戸（木造率66.1%）となった。

**清酒** 6月の清酒移出数量は、1,346kl（前年同月比5.8%減）となり4ヵ月連続で前年を下回った。

タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）で451kl（同3.2%増）となり3ヵ月連続で前年を上回った。一方、一般酒（特定名称酒以外の酒）で895kl（同9.7%減）となり4ヵ月連続で前年を下回った。

**化合繊維物** 6月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産についても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

**ニット** 6月のニットは、消費者の買い控え傾向から、受注・生産は低調な水準で推移した。

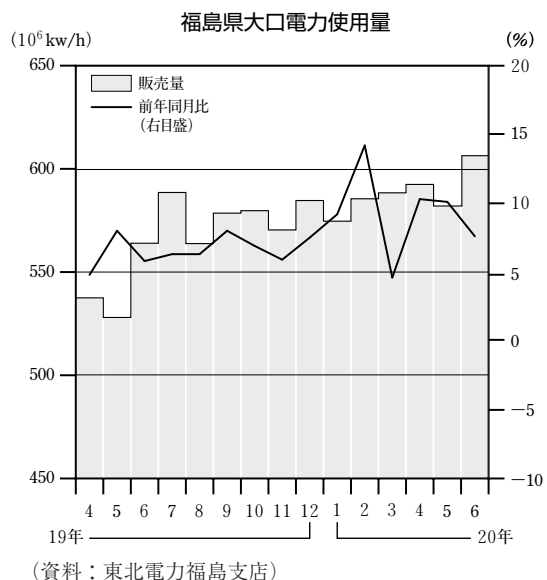
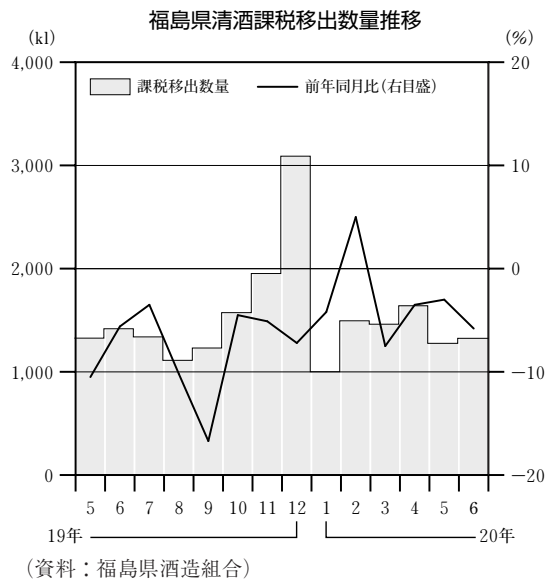
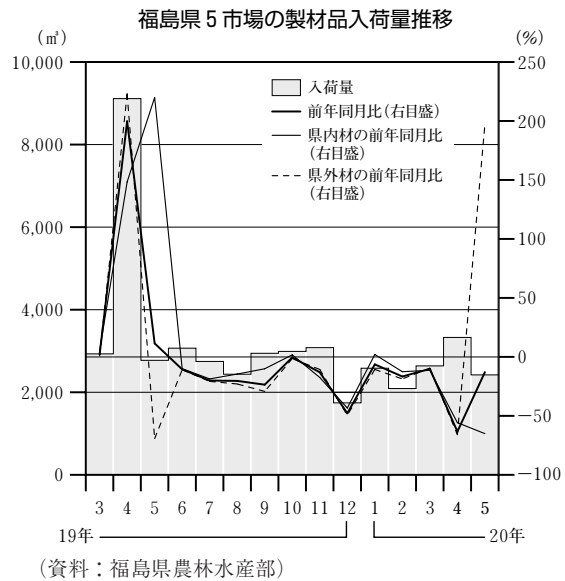
**大口電力** 6月の大口電力販売量は、607百万kw/h（前年同月比7.6%増）となった。

主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で129百万kw/h（前年同月比2.7%増）、「非鉄金属」で128百万kw/h（同39.9%増）、「化学」で57百万kw/h（同1.9%増）、「輸送用機械」で63百万kw/h（同8.2%増）、「一般機械」で31百万kw/h（同0.03%減）、「紙・パルプ」で30百万kw/h（同4.6%減）となった。

## —— 企業倒産 ——

**企業倒産** 6月の企業倒産（負債総額10百万円以上）における倒産件数は、16件（前年同月比33.3%増）となり9ヵ月連続での2桁台となった。負債金額でも、スキー場経営会社の大型倒産が発生したことから74億5百万円（同166.9%増）となり大幅な増加となった。

平成20年1月から6月までの累計は、倒産件数で前年同期比21件増加し90件（前年同期比30.4%増）、負債金額で同373億16百万円減少し504億44



百万円（同比42.5%減）となった。

県内企業の倒産状況は、件数では平成19年10月以来9ヵ月連続で2桁台を続けるなど高水準にある。負債金額の面でも前年同期比での減少は、昨年4月に発生した負債金額が6百億円を超えるパチンコ店の大型倒産発生の反動減によるもので、依然悪化増勢傾向になっている。

倒産主因の内訳は、受注・販売不振14件、設備投資失敗1件、その他1件となった。業種の内訳は、建設業5件、製造業、小売業とともに4件、運輸・通信業2件、サービス業1件となった。地区別は、県北7件、会津6件、県南3件となった。

## 金融動向

**資金需要** 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の6月末の預金残高は、6兆3,556億円（前年同月比1.8%増）となり16ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆7,799億円（同0.6%減）となり18ヵ月連続で前年を下回った。

**保証協会** 6月の保証承諾は、件数で1,134件（前年同月比17.2%減）、保証金額で126億10百万円（同9.9%減）となり、ともに5ヵ月連続で前年を下回った。一方、代位弁済は、件数で75件（同36.4%増）と前月に引き続き大幅な増加となり5ヵ月連続で前年を上回った。金額は、4億33百万円（同4.3%減）となり4ヵ月ぶりに前年を下回った。

## 雇用動向

**雇用動向** 6月の新規求人数（原数値）は、9,680人（前年同月比18.4%減）となり8ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、9,865件（同6.6%増）となり2ヵ月ぶりに前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、1.01倍（前月比0.08%低下）となった。原数値は0.98倍（前年同月比0.30%低下）となり8ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.72倍（前月比0.04%低下）となった。原数値は0.64倍（前年同月比0.16%低下）となり8ヵ月連続で前年を下回った。

